

国立新美術館

第2回 カフェオキ 「フランスを楽しむーパリとプロヴァンスー」

2012年5月19日(土) 開演 15:00~16:00(開場 14:30) 会場 国立新美術館 3階研修室 AB
ドラ・トーザン(国際ジャーナリスト)×坪井善明(早稲田大学教授)×青木 保(当館館長)

●ドラ・トーザン(Dora Tauzin)

国際ジャーナリスト。エッセイスト。ソルボンヌ大学応用外国語修士号取得後、パリ政治学院(Institut d'Etudes Politiques de Paris, Sciences-Po)成績優秀者の認定を受けて卒業。フランス語のほか、英語、ドイツ語、イタリア語、日本語の5カ国語を話し、ベルリン、ロンドン、ニューヨークで暮らした経験のある国際人。国連広報部勤務後、NHKテレビ「フランス語会話」への5年に渡る出演がきっかけで日本に住むようになる。慶応義塾大学講師などを経て、現在、東京日仏学院、アカデミー・デュ・ヴァンなどで講師を務めながら、日本とフランスの架け橋として、新聞、雑誌の執筆や、講演、イベントでの司会など各方面で活躍中。テレビ番組でのコメンテーター、レポーターとしての出演も多い。朝日新聞にて「Doraのドラ猫ボンジュール」(07-08年)、東京新聞にて「本音のコラム」(09年)連載。著書多数。文化庁「文化発信戦略に関する懇親会」委員。文化庁より長官表彰(文化発信部門)。2012年5月「パリジェンヌ流 今を楽しむ!自分革命」(kawadeshobo)『ママより女』(小学館)『東京のプチ・パリですてきな暮らし』(青萌堂)『今日を楽しむパリの暮らし方 (sasaeru 文庫 1-1)』(成美堂出版)『パリジェンヌのパリ 20区散歩』ポプラ社)『ドラがみつけたプロヴァンスの家』(ギャップジャパン) www.doratauzin.net <https://www.facebook.com/dora.tauzin.official>



photo by Ryoichi YAMASHITA



●坪井善明(つぼい・よしはる)

1948年生まれ。早稲田大学政治経済学術院教授
ベトナム政治・政治史専攻。パリ政治学院、グルノーブル政治学院、エクサンプロヴァンス政治学院客員教授を務める。1977-82年までフランス政府留学生としてパリに滞在。EHES 社会学博士。旧フランス植民地だったベトナムの史料がアンドレ・マルローが文化大臣をしていた時に建設されたエクサンプロヴァンス国立公文書館に保存されているので、78-79年の一年間ほぼエクスで暮らす。その後も頻りにパリとエクスに滞在。日本-フランス-ベトナムの三角測量で世界を見る姿勢を学問に活かしている。日仏会館学術委員。パルム・アカデミック賞シュバリエ受賞。L'Empire vietnamien face a la France et a la Chine(L'Harmattan,1987)で渋沢・クローデル賞受賞。

●青木 保(あおき・たもつ)

国立新美術館長。文化人類学者・文化政策研究者。東京生まれ。
東京大学大学院で文化人類学を専攻・大阪大学で博士号取得(人間科学博士)。
大阪大学、東京大学、政策研究大学院大学などで教授を務め、2007年4月-2009年7月文化庁長官。2009年8月から青山学院大学大学院特任教授。2012年1月から国立新美術館長。
この間、タイ・国立チュロンコン大学研究員、米ハーバード大学客員研究員、仏国立パリ社会科学高等研究院客員教授、独コンスタンツ大学客員教授なども務めた。
日本民族学会(現文化人類学会)会長(1994-1996、現在名誉会員)。日本文化政策学会顧問。
1965年以来、タイ、スリランカなどのアジア各地、英国、ドイツ、フランスなど西欧各地、中国などで文化人類学・文化政策学研究のフィールドワークに従事。1972年から73年にかけてバンコクのタイ仏教寺院で僧修行を行う(「タイの僧院にて」中公文庫、にその体験を書いている)。
受賞:サントリー学芸賞(1985年) 吉野作造賞(1990年) 紫綬褒章(2000年)
著書:近著に『文化力の時代』(岩波書店、2011年12月刊)「作家は移動する」(新著館、2010年)。その他、「多文化世界」「異文化理解」(以上、岩波新書)「儀礼の象徴性」(岩波現代文庫)「アジア・ジレンマ」(中央公論新社)『「日本文化論」の変容」(中公文庫)など多数。

